

## 4 ディベートを重視し、実践力を養う授業展開例

教科(科目)	地理 A	単元名	第 1 章 問題をかかえた地球
本時の主題	地球的課題と南北問題<ディベート> (4 時間目 / 4 時間)		
本時の目標	<p>(1) 様々な地球環境問題と南北問題が深く関わっていることに興味・関心をもつ。【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 「ディベート」というコミュニケーション・スキルを用いて、自己を表現する力・論理的に思考する力を身につけると同時に、物事を複眼的に見る能力を身につける。【技能・表現】</p> <p>(3) 環境問題のもつ複雑な背景と先進国、発展途上国の考え方の違いを理解するとともに、どのような国際協力が望まれるかを考察する。【思考・判断】</p> <p>(4) 国内および国際社会の経済社会構造自体を環境にやさしいものに変えていくことが必要であるということを理解する。【知識・理解】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
<p>様々な「地球環境問題」の原因や影響を確認し、理解する。</p> <p>10分（経過時間）</p> <p>「地球環境問題」を南北それぞれの立場で様々な視点から議論する。</p> <p>30分</p> <p>対立が及ぼす影響に気づかせ、国際協力の必要性を理解する</p> <p>40分</p>	<p>確認 前時の学習内容「地球環境問題（地球温暖化・オゾン層の破壊・森林の破壊・酸性雨）」を復習し、「地球環境問題」の実態を確認しよう。</p> <p>(1) 「地球温暖化」の原因と影響について〔資料 1 参照〕 (2) 「オゾン層の破壊」の原因と影響について (3) 「森林の破壊」の原因と影響について (4) 「酸性雨」の原因と影響について</p> <p>ディベート 論題「地球環境問題をめぐる南北の対立」というテーマでディベートマッチをしよう。</p> <p>ディベート方法 (1) 「立論」（先進国・発展途上国それぞれ 3 人発表） (2) 「作戦タイム」 (3) 「反対尋問・質疑」（先進国・途上国それぞれ 3 人発表） (4) 「作戦タイム」 (5) 「反駁・応答」（先進国・途上国それぞれ 3 人発表） (6) 「最終弁論（まとめ）」（先進国・途上国代表者発表） ・「地球環境問題」に対する南北の論点を明確化させる 先進国：開発が環境汚染や自然破壊を引き起こす 発展途上国：未開発・貧困などがもっとも重要な人間環境問題である *ディベーターはメモ（フローシート）をとりながら、相手の意見の「論点」に対応できるようにする。</p> <p>審査・判定結果発表〔資料 2 参照〕 審判員は「審査表」に従い、審査しよう。そして、審判員の代表者は判定審査の結果を発表し、講評しよう。</p> <p>・ 6 つの観点から審判員内でお互いの評価を発表し合い、先進国・発展途上国それぞれの判定審査をする。 ・ ディベーターは、反対の立場も意識しながら議論を振り返り、自己評価をする。〔資料 3、4 参照〕</p>		<p>「パワーポイント」で作成したスクリーン〔資料 1〕を見て、前時の学習内容を想起し「地球環境問題」と南北問題が深く関わっていることに関心を持つことができたか。</p> <p>【関】</p> <p>評価方法 発問、挙手</p> <p>相手の意見を聞き、疑問点などをメモにとりながらしっかりと聞くことができたか。</p> <p>【技】</p> <p>&lt;評価方法&gt; フローシート記入、机間指導 審査員による評価 自己を表現する力・論理的に思考する力を身につけると同時に、物事を複眼的に見る能力を身につけることができたか。【技】</p> <p>&lt;評価方法&gt; 審査員による評価 議論・討論を通じて、表現力説得力を養うことができたか</p> <p>【技】</p> <p>&lt;評価方法&gt; 審査員による評価</p> <p>審判員は判断基準に沿って判断し、議論全体を公平にみて判定審査できたか。【技】</p> <p>&lt;評価方法&gt; 審査表記入、机間指導</p> <p>環境問題のもつ複雑な背景と先進国、発展途上国の考え方の違いを理解し、国際協力の必要性を理解できたか。</p> <p>【知】</p> <p>&lt;評価方法&gt; プリント記入、 審査員による講評</p>
			<p>注 1 注 2</p> <p>注 3 注 4 注 5</p>

指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
<p>講評を分析し、具体的な国際協力のあり方を考察させ、実践力を養う。</p> <p>人口問題と南北の関わりを提起する。</p> <p>50分</p>	<p>まとめ〔資料5参照〕 本時の学習内容を振り返り、南北の対立を解消するためにどのような国際協力が必要かを考えてみよう。</p> <p>次時予告 人口問題においても、南北の対立が存在することを理解しどのような対策が望まれるかを考察する。 (次時「世界の人口問題」への発展)</p>	<p>どのような国際理解が望まれるかを本時の学習で理解したことから考える。【思】 &lt;評価方法&gt; プリント記入、机間指導 授業後提出</p> <p>本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。</p>

< 指導上の留意点 >

注1 事前に本時の学習内容と手順について説明し、発表者なども決めておく。

< 手順 >

a) クラスを先進国の立場・発展途上国の立場・審判団に分ける。 < 前時 >

b) それぞれの立場で資料(本・インターネット利用)を収集し、審判団を納得させる論理を構築する。  
< 前時 >

注2 プレゼンテーションソフトを用い、前時の学習内容の内容を確認し、本時の学習への意欲を喚起させる。

注3 与えられた時間内に「立論」が終了できるように、原稿などを事前にチェックし、時間が無駄にならないように指導しておく。

注4 評価の視点<方向性・深化>を明確にしておく。

注5 判定に関しては、必ず根拠を示すように指導しておく。

< 単元の指導計画 (全4時間) >

- 1 時間目 「地球的環境問題の出現」
- 2 時間目 「多くの地球的課題」プレゼンテーションの準備
- 3 時間目 「多くの地球的課題」プレゼンテーション
- 4 時間目 「地球的課題と南北問題」ディベート(本時)

< 資料編 >

資料1 様々な地球環境問題(パワーポイントを使ったスライド一覧)

<p>地球温暖化とは？</p> <p>原因...化石燃料の大量消費による二酸化炭素の発生</p> <p>影響...海面の上昇(氷河の融解で海面水位が上昇) 異常気象(洪水や干ばつが世界的に多発) 人体への影響(伝染病の拡大) 動物・植物の生態系への影響 農作物への影響</p>	<p>オゾン層の破壊とは？</p> <p>オゾン層...地球上のオゾンの大部分は地上25kmの上空に存在し、オゾン層とよばれる。 オゾン層は有害な紫外線の大部分を吸収し、地球上の生物を守っている。</p> <p>原因...フロンなどの人工の化学物質の放出</p> <p>影響...皮膚ガンの増加、植物の絶滅</p>
--	---

**森林の減少とは？**

原因...過度な焼畑耕作・薪炭材の過剰採取  
放牧地・農地などへの転用  
商業伐採

影響...洪水などの自然災害の発生  
生物種の絶滅  
二酸化炭素の増加      地球温暖化  
異常気象

**酸性雨とは？**

原因...化石燃料の使用による窒素酸化物  
硫黄酸化物の発生

影響...樹木の枯死(シュバルツバルトなど)  
湖沼の酸性化(湖沼の生態系を破壊)  
建造物や文化財の腐食  
人体への影響(目や皮膚の痛み)  
農産物への影響

資料2 「審査表」

審査基準(優れている方に 印を記入)

	先進国	途上国
分析評価(定義の妥当性)	( )	( )
論証評価(論証力)	( )	( )
証拠評価(主張との関連性)	( )	( )
構造評価(論理的構造)	( )	( )
反駁評価(相手の議論への反駁)	( )	( )
伝達評価(演説での態度)	( )	( )
合計	( )	( )

	<先進国>	<途上国>
(1)立論		
(2)反対尋問		* 審査をする上で、必要事項を記入
(3)反駁		
(4)最終弁論		

資料3 「本時の学習プリント」

テーマ：**環境問題をめぐる南北の対立**  
講評要約

環境問題をめぐる複雑な背景とそれぞれの立場  
先進国：  
途上国：

望ましい国際協力とは？

<メモ欄>展開までの授業において使用

資料4 「自己評価表」

自己評価項目( ・ ・ ・ × で記入)

積極的・意欲的に取り組むことができたか。  
自己の役割を十分に果たすことができたか。  
先進国側・発展途上国側の立場を理解できたか。  
地球的課題の原因・影響を理解することができたか。  
効果的なディベート方法を知り、自分のものにする  
ことができたか。

資料5 「本時のまとめ」

国境を越えた地球環境問題

- ・地球環境問題は人間の様々な活動に関係
- ・地球環境問題は相互に関係していることが多く複雑な因果関係が存在する
- ・地球環境問題の影響は、全地球的規模に及ぶ
- ・地球環境問題は長い時間をかけて進む

地球環境問題の解決には国際的な協力が不可欠  
国内及び国際社会の経済社会構造自体を環境にやさしいものに変えていくことが必要

「生徒が主体的に取り組む授業の実現に向けて」

1の授業においては、商業科教員と連携して、WEBページの作成という活動を通して、土岐プラズマ・リサーチパーク事業を理解させようとした。わかりやすく立派なWEBページを作成しようとする生徒たちの意欲を大切にしながら、また、見学・調査・表現活動を適宜取り入れるよう学習計画を工夫した。実践の結果、体験的な学習活動の中で、生徒は概ね学習活動の充実感や達成感を得ることができたのは大きな成果であった。

2の授業では、「新エネルギー(核融合)」について、施設見学・調査・研究し、プレゼンテーションすることにより、自主的・自発的に学習を進め、学習成果をまとめる力や発表する力を伸ばすことができた。今後の授業においても随時発表させ、課題追究に対する生徒の意欲を一層高めるとともに、生徒のプレゼンテーション能力を高める機会を積極的に設けていきたい。また、地域素材を教材化することにより、地域に目を向ける中で、地球的課題を考えることができた。今後は、地域に対する愛情と誇りを育成するようにさらに研鑽をしていきたい。

3の授業では、地球的課題の「プレゼンテーション」を通して、各自が調査研究した内容を相手に効果的に伝えるために、聞き手の立場を十分に考え、広い視野で物事を考えることができるようになった。そして、情報を相手に伝えるだけでなく、自分が追究した課題を再確認し、解決策を各自が考察することができた。本校では平成11年度から平成13年度までの3年間、文部科学省より研究開発学校の指定を受け、「商業専門高校における情報教育の在り方」を研究テーマに、専門教科「情報」に属する11科目の研究を進めてきた。「地理A」の授業においても、創造的で豊かな感性をはぐくみ、情報を活用するうえでの基礎的・基本的な知識や技術を習得させるため、積極的にコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を利用した授業を行ってきた。このような授業を通して、生徒の「考える力」を引き出すことができ、情報活用能力やおよび問題解決能力の育成につながったと考える。今後さらに進展していく高度情報通信ネットワーク社会に対応するためにも、「地理教育」における情報教育の在り方、捉え方を研究していきたい。

4のディベートでは、開発が環境汚染や自然破壊を引き起こすことを強調する先進国の立場と、未開発・貧困などが最も重要な人間環境の問題であると主張する発展途上国の立場が鋭く対立した。しかし、深刻化・地球規模化する環境破壊は人類の将来の生存の持続さえ危ぶまれるようになり、これに対処するには国際協力を一層強化するとともに、国内および国際社会の経済社会構造自体を環境にやさしいものに変えていくことが必要であるという認識では一致した。今回の論題は、生徒が高い関心を持ち、意欲的にディベートを行った。その結果、情報収集能力・分析力を養いながら同時に論理的思考力や討論する力も身についたと思う。今後の授業においても随時ディベートを取り上げ、継続的に自己表現力・論理的思考力などを高める機会を設けたいと思う。